

令和元年度第3回北杜市ふるさと創生会議 議事録

1. 会議名 令和元年度第3回北杜市ふるさと創生会議
2. 開催日時 令和2年2月21日（金） 午後3時30分～午後4時35分
3. 開催場所 北杜市役所 北館3階大会議室
4. 出席者
 - (1) 北杜市ふるさと創生会議委員
山田輝夫、小林喜文、小林昭二、藤原真理、三井麻里子、仲田莉里亜、羽根田篤、小山愛実理、浅川幸彦、利根川昇、高橋達郎、浅川幹、小林昭治、大塚広夫、藤原真史、依田浩二、秋田七美、山本佳里
 - (2) 北杜市
市長、副市長、教育長、企画部長、総務部長、市民部長、福祉部長、生活環境部長、産業観光部長、建設部長、議会事務局長、教育部長、監査委員事務局長、農業委員会事務局長、会計管理者、明野総合支所長、須玉総合支所長、高根総合支所長、長坂総合支所長、大泉総合支所長、小淵沢総合支所長、白州総合支所長、武川総合支所長、企画課長、財政課長、総務課長、総務部地域課長、総務部地域課ふるさと創生担当、政策秘書課政策調整担当
5. 会議次第
 - (1) 開会
 - (2) 委嘱状の交付
 - (3) 委員長あいさつ
 - (4) 市長あいさつ
 - (5) 議事
 - ①第2次北杜市総合戦略について
 - ②その他
 - (6) 閉会
6. 公開・非公開の別 公開
7. 傍聴人の数 0人
8. 審議内容

■同（6）議事①について、説明がなされた。

■質疑応答

【委員】

2点質問をさせていただきたい。

大きい冊子のP4のところとA4資料のP1に2020年9月に総合戦略改訂とあるが、2020年以降も順次改訂していく予定があるのか。また、総合計画の後期基本計画が5年間定められることとなるが、総合計画との関係性はどのようになるのか。

【政策秘書部長】

資料の後ろのほうに各事業が掲載されている。その右側が活動指標や決算額を掲載することとなっている。来年度以降は、毎年6月に決算がまとまったところで、活動指標や決算額を入れていきながら、各課でその評価を行い事業概要との修正を行っていく。

それに基づいて、ふるさと創生会議の意見を聞きながら、毎年度見直しを行っていく予定。

また、総合計画との関連性であるが、今回整備した総合戦略は、総合計画を承継するという点で同じもので、総合計画の事業が全て掲載しているということになる。

このため、総合戦略の評価を見ながら、後期基本計画の内容に反映をさせていきたい。

【委員】

事前に資料を送ってもらい中を見た。おそらく今回が最後の検討会になるだろう。まずは、感想を述べさせてもらいたい。

今回、戦略を策定するにあたって、非常に丁寧に計画づくりをしてもらったと感じている。

市長の挨拶にもあったように、各団体からの意見を十分に聞いて、バブコメ実施してきており、この手順が非常に丁寧だなと感じている。

また、随所に職員からの提案かなと思うところもあり、職員の意見を聞きながらまとめられていると感じている。

もちろん多くの市民の意見も入っているということで、総じて手作り感があって内容が充実した計画になったと感じている。

国の総合戦略に呼応して、全国の自治体が策定作業を進めているが、北杜市では手づくり充実したものとなっている。

また、冊子のP5にPDCAサイクルの図が載っているが、たしか前回の会議ではなかった。これが入ったことにより、計画の実効性が確保されたというか、見直しをしていくという生きた計画になっていくものだと思う。

行政改革もこのPDCAサイクルで回しているの、大いに期待したいと思う。

このような感想の中で、2点ほど伺いたい。

まず、厚い冊子のP20に行政組織の図が載っている。今回は4月1日からの組織図となっているが、左下の出先機関配置表において、ほくとっく元気課、学校給食課、学術課などは本庁の部に属するものであって、指揮命令系統は出先機関ではなくて本庁扱いになると思うが、市の行政組織規則に照らし合わせて、出先機関でよいのか教えていただきたい。

もう一点は、P37の説明の中で「SDGs」の説明があった。これは今回新しくできたわけだが、先ほど説明してもらって何となく分かったが、これをはじめてみた人が「SDGs」ってなんだろうとう疑問をもつだろう。自分の知識では、国の総合戦略にもある持続可能な開発目標

と訳すだろうが、P 37にスペースがあるので注意書きなど書いてもらえるとありがたいがどうか。

【政策秘書部長】

貴重な御意見、ありがたい感想をいただき、ありがとうございました。

まずは、組織図については御指摘のとおり、本庁の部の所属となるので修正をさせていただく。

また、「SDGs」については、一般市民の方になじみのないものであるので、17の目標等の内容等をP 37に分かるように記載していきたい。

【委員】

P 134の八ヶ岳観光圏支援事業について、今の国の補助事業というのは観光地域づくり法人と民間があったが、R 2からは観光地域づくり法人と行政ということになるが、八ヶ岳観光圏については、補助というか事業が日本版DMOにきているイメージになる。この辺は言い回しになるが、八ヶ岳観光圏への支援となるとDMOの事業との関連性は問題ないのか。

【産業観光部長】

八ヶ岳観光圏事業ということで、当然、DMOに事業が集中してくるわけだが、あくまでもそういう事業と市の単独事業を含め八ヶ岳観光圏事業として取り組んでいるわけであるのでそうした枠組みで考えている。

【委員】

では、今までどおり、観光地域づくり法人DMOとして引き続き観光圏事業を実施していくこととして解釈する。

あと、インバウンド対策について、東南アジアなどへのプロモーションが予定されているが、本国へのプロモーションを行うということか。

【産業観光部長】

インバウンドについては、P 134の13にある。今回リニューアル事業ということで観光圏でも力を入れている。国でもインバウンドに力をいれていくということから観光圏との連携をとって事業展開していきたい。

【委員長】

私のほうからいくつか伺いたい。さきほどの質問にもあったように今回SDGsの項目が追加されている。この辺は、市民の方との意見交換で出たもので、それが反映されている。各地での総合戦略策定に関してSDGsを盛り込むところもあるが、今後この項目を盛り込むことによって今後色々な事業で国の支援が活用できるということか。

もう一点、今回人口ビジョンは、今までの枠組みの中で変えないということだが、これは、北杜市の見積もりが人口ビジョンに対して比較的現実的な数値で、その後の推移も順調だから、現行のままで計画を行っていくことということでのよろしいのか。

【政策秘書部長】

まず、SDGsを位置づけた背景ということだが、こちらについては意見をいただいたところですが、当初、策定段階では、SDGsは叫ばれている状況であったが、これまで進めてきた色々な事業展開や合併前の事業等とSDGsの目標を照らし合わせてきたところ、もう既に取り組んでいるというものがあつた。このため、プレ計画の段階から入れていなかったが、現在、他の自

治体や民間などでもSDGsを取組として掲げているので、今回見直しの中で市のこれまでの取組を見せるということで今回新たに入れることとなった。

また、人口ビジョンについては、今回修正を加えていない。第1次総合戦略と同時に策定した人口ビジョンを引き継いでいる。これは、自然増減については減少しているが、社会増減については移住定住施策の効果で増加している。このことから、今回人口ビジョンの修正は行っていない。

【委員長】

事務局から補足説明はありますか。

【政策秘書部長】

策定後についてもう一度話をさせていただく。来年度以降、事業展開については市民等の意見を聞きながら実施していく。ただ要望をもらうのではなく、市民、民間の方とともに事業展開をしていくというところも力をいれていきたい。そのような中で見直しを行っていきたい。ふるさと創生会議については、8月と2月を予定していると説明したが、戦略の見直しというところでは、8月に前年度の成果指標や活動指標、決算額を入れた上で、委員の皆さんの意見を伺いたい。それを踏まえて、翌年度の当初予算に反映をさせていきたい。その後、市議会への報告のもと修正を行っていきたい。

【委員】

要望ということで、隣の長野県では、SDGsの取組を行政と民間が一体となって実施している。北杜市でも、環境や教育など様々な分野での連携を検討願いたい。

【政策秘書部長】

SDGsの分野で長野県のように先進的なところもある。今後、そうした事例を研究して取り組んでいきたい。いずれにしても、この総合戦略は、「みんなでつくろう健幸北杜」であるので、事業展開に際しては、市民や企業の皆さんから意見を聞いていく、その中でSDGsについても検討事項として検討していきたい。

【委員】

以前総合計画を策定したときに話をしたことがあるが、まもなく東京オリンピックを迎え、北杜市でもホームタウンとして迎える。これから競技種目に対する興味がわいてくると思うが、市の施策としてやる以上オリンピックが終わった後、そういった施策が継続できることが重要だと思う。いわゆるオリンピックのレガシーというけれども、それに関連した種目やそれ以外のスポーツ熱が高まり、健幸北杜に寄与することが重要だと思う。オリンピック後の市民がスポーツを楽しむ、触れる機会というものをどのように考えているか。

【政策秘書部長】

オリンピック関連については、P199以降にある。まずは機運の醸成というところでこの歴史的なイベントを特に子供達の記憶に残していきたい。オリンピックはあくまでスタートだと捉えている。P199ではビーチバレー・BMXの事業の目標値を置いているところ、また、P189では生涯スポーツの推進の事業が掲載されている。いずれオリンピックを契機にテーマとして一人一スポーツということで生涯スポーツの推進を図っていきたい。

また、民間の力ということで、今月、コカコーラと連携協定を結んで生涯スポーツの推進を図

っていきたい。

【委員】

農業の分野で聞きたい。

バブリックコメントにもあるように、高齢化による農業などの人材をどのように育成していくかというところがあるが、私が所属しているフードバレー協議会では約130の仲間でもうかる農業を目指して行っている。

P120の担い手農業育成事業で農業教育研修助成金の0件はなぜか。また、環境循環型農業推進事業の堆肥使用料が減少しているということか。あと、持続可能な若者を呼び込む儲かる農業のため市でも色々事業をしてもらっている。これからの市の農業の取組を聞かせてもらいたい。

【産業観光部長】

担い手の関係は、補助金交付要綱による申請がなかったということ。循環型事業は、市内産の堆肥を購入した場合に補助している事業で毎年予算の範囲内で実施しており、年々単価が上がっているので使用料が減少しているということ。

また、担い手対策や新しい農業を行う人への対策ということは、理想と現実には厳しい部分があるのでしっかりした人でなければならない。そうしたことから、支援機関との連携により北杜に合った事業展開を進めていきたい。

【委員】

P21の職員数ということで、今回、総合戦略で人口対策や地域経済の活性化に取り組むということで様々な事業が計画されているが、一方で職員数が減っていくという状況がある。

こうしたギャップについて、市としてどのように取り組んでいくのか。

【総務部長】

市では、定員適正化計画があるのでそれに基づいて行っている。実際のところは減少してきている。合併以降は減少傾向にあったが、ここ最近では横ばい傾向にある。来年度の目標が病院を除く552人となっている。それに伴い非常勤嘱託職員を雇用しているが、来年度から会計年度任用職員ということで、ほぼ職員の数と同じ位を確保してやっていく。市としては、市民の様々な要望がある中で、事業を精査し、民間に委託できるものは民間に委託など検討していきたい。

【委員長】

P179の不登校・いじめの成果指標がないのはなぜか

【政策秘書部長】

中柱の成果指標がないのはここだけ。不登校やいじめについては取組として扱わなければならない。ただ、成果指標になじまないものとして考えている。実際の事業の取組をしっかりと行っていきたい。

【議長】

議事①については、こちらでよろしいか。

【委員】

異議なし。

【議長】

議事②については、あるか

【委員】

なし

【事務局】

来年度機構改革により、総合戦略について政策推進課が所管となる。
創生会議事務局も政策推進課で行うこととなる。

以上